

JICA 後援「町工グローバル IT エンジニア育成プログラム」

平成 30 年度 ベトナムスタディーツアーの報告

東京都立町田工業高等学校

総合情報科 主幹教諭 寺島 和彦

1 はじめに

本校は、総合情報科工業高校として、「ものづくり」と「ICT」に関わる人材を育成している。この方針のもと、国際的に活躍できる人材の育成も視野に入れ、昨年度から「町工グローバル IT エンジニア育成プログラム」を実施している。

このベトナムスタディーツアーも 2 回目の実施となり、プログラム充実に向け、昨年度とは少し内容を変更した。その検証も含め、今回のベトナムスタディーツアーについて報告する。

2 昨年度の実施概要

実施期間は、平成 29 年 7 月 24 日（月）～29 日（土）の 4 泊 6 日。28 日は、機中泊。

参加生徒、12 名（男子 9 名、女子 3 名）。また、系列の内訳は、情報デザイン系列 4 名、アプリケーション系列 1 名、情報システム系列 5 名、機械システム系列 2 名であった。

・訪問先

- ① 在ベトナム日本大使館
- ② JICA ベトナム
- ③ ベトナム財務省税関総局
- ④ ベトナム通関署
- ⑤ NTT データベトナム
- ⑥ 富士通ベトナム
- ⑦ NEC ベトナム
- ⑧ 市内見学

IT 企業の訪問を中心に、日系企業の海外進出の現状、現地での事業内容、IoT に関すること、オフショア開発などについて学んだ。その中でも、NTT データベトナムで行った、「ベトナム社会の課題を解決するための提案」をプレゼンするために、現地社員とグループを組んでフィールドワー

クを行い、プレゼン資料をまとめ、発表を行ったことは、生徒にとってとても有意義であり、学習効果も非常に高いものになった。

また、JICA ベトナムを訪問し、国際支援の現状を学べたことも、国際感覚を身に付けるためには、有意義であった。

何より、ベトナムで生徒たち自らが見聞きしたことすべてが刺激になっており、実際に海外に行かせることの重要性が改めて実感することができた。

3 今年度の主な変更点

昨年度は、初めての実施だったため、目的をより明確にするために、IT 企業を中心に IT に特化する内容にしたが、一方で、電気システム系列や機械システム系列の生徒の参加を促すために、ものづくりなどの分野も学習内容も充実させた。

また、講義形式のものが多く、生徒が主体的に参加できる内容を増やす必要性も感じたため、今回は「交流」をテーマとして、現地の日本人社員、現地のベトナム人従業員、ベトナムの高校生、ベトナムの学生など、多くの交流の場を設定した。

4 スタディーツアーの概要

実施期間は、平成 30 年 7 月 23 日（月）～28 日（土）の 4 泊 6 日(27 日は、機中泊)で、表 1 の行程で実施した。

参加生徒は、6 名（全員男子、2 年生 4 名、3 年生 2 名）、系列の内訳は、情報デザイン系列 1 名、アプリケーション系列 2 名、情報システム系列 2 名、電気システム系列 1 名であった。3 年生の参加者は、昨年を引き続きの参加であった。引率教員は、3 名(校長を含む男性 3 名)で行った。

日程	訪問先	学習内容
7/24(火)	9:00 JICA ベトナム	・JICA組織の事業内容と職員の仕事について ・ベトナムの社会課題やインフラの状況について ・日系企業の越へのインフラビジネス展開について ・日本からの技術支援について
	11:00 NTTデータベトナム	・VNACCSプロジェクトについて ・日本社員の仕事について ・システム開発の手法について
	16:00 在ベトナム日本大使館	・表敬訪問 ・大使館の役割について ・ベトナムのインフラの事情
7/25(水)	9:00 キムリエン高校	・学校紹介、自己紹介 ・学校施設見学 ・昼食交流
	14:00 ハノイ市内	・現地学生ボランティアとの交流
7/26(木)	9:30 KANEPACKAGE	・事業について ・日本社員へのインタビュー ・ワークショップ(エッグドロップ) ・社員食堂の体験
	13:30 SWCC SHOWA	・事業について ・工場見学 ・工場で働く現地社員へのインタビュー
7/27(金)	9:30 NEC ベトナム	・NECベトナムの事業について ・オフショア開発について ・現地社員へのインタビュー
	12:00 ハノイ市内 文化見学	・ベトナム文化の理解

国際支援を考えるきっかけとなったことを実感できた。青年海外協力隊についての話もあり、将来、このプログラムから参加する生徒が輩出されることも期待したい。



5 各訪問先での様子

① JICA ベトナム事務所

2日目の午前中は、JICA ベトナム事務所を訪問し、JICA の国際支援事業とベトナムでの支援について、説明を受けた。

昨日、ハノイ空港に到着してから宿泊先に移動するまでに、JICA の支援プロジェクトで架けられたヤタン橋を見学しており、今回の国際支援事業の説明も、より具体的に理解できるように工夫をした。



生徒の質問の中では、支援したことに対する見返りはないのかとの問いに、利益を得ることを目的にしていないこと、現地の役に立つことで日本に対する信頼感が増し、結果的に日本にも良い経済効果が生まれると回答があり、生徒目線で、

② NTT データベトナム

システムインテグレータの代表的な企業であり、今年度もご協力をお願いし訪問した。

今回は、海外で働くプロジェクトマネージャーやSEの仕事を知ることがを目的に、学習内容を構築した。日本社員の役割や具体的なプロジェクトの進め方、そこで使用される技術、現地人の社員との仕事の仕方など、実践的なお話をいただいた。



また、JICA の支援プロジェクトの VNACCS についても、NTT データが開発に携わっており、JICA での学習から引き続き、技術者の目線で国際支援について学習することができた。

昼食も一緒に取らせていただき、様々な会話を通して、自身の将来のキャリアを考えるための口

ールモデルに会えたことを印象に残しておいて欲しいと願っている。



③ 在ベトナム日本大使館

大使館では、大使館の仕事や役割、ベトナムと日本の関係性、在留邦人の推移、また、在日ベトナム人のことなどについてお話をいただいた。



特に、技能実習生で日本に渡るベトナム人について、悪質な業者の被害にあっている方も多く、その被害を食い止める活動も行っているとの話があり、生徒たちは、このような問題が起きていることを知るきっかけになったとともに、大使館の果たす役割が想像以上に多岐に渡り、重要な仕事を担っていることに生徒たちは、尊敬の念を強く抱いていた。

また、ベトナムのインフラ事業に関する資料もいただき、ホテルに帰ってから、この資料をもとに学習を行い、今後の工程を実施していくうえで、とても有意義なものになった。

ちなみに、本校訪問の様子は、在ベトナム日本

大使館の Facebook で紹介された。



④ キムリエン高校

3日目は、キムリエン高校を訪問した。キムリエン高校からは、夏休み中にも関わらず 25名の生徒が集まってくださり、盛大に交流を持つことができた。

始めに、キムリエン高校から、学校紹介、歓迎の歌や踊りが披露され、本校からも、自己紹介と学校紹介、校歌を披露した。





その後、ゲーム形式で、お互いの名前や連絡先、趣味等をどれだけ多く集められるか競い合ったり、椅子取りゲームなど行っていく中で、生徒同士は徐々に打ち解けあっていた。



また、昼食も近くのフォーのお店で一緒に食べ、さらに交流を深めていた。



本校の生徒は、比較的消極的な生徒なのだが、キムリエン高校の生徒たちの積極性で、短時間の中でこれだけ打ち解けられたのは、想像以上であった。同じ高校生同士で交流を持つことがとても有意義だと実感し、来年度以降も継続的に交流が持てればと考えている。それに合わせて、今年度「海外学校間交流推進校」に指定されたこともあり、キムリエン高校との姉妹校締結に向けての話し合いの機会も持つことができた。

余談ではあるが、この後からすぐに生徒同士でのメールのやり取りが始まり、最終日には、見学している先にまで来てくれて、生徒たちはとても感動していた。



⑤ KANEPACKAGE VIETNAM CO.,LTD

4 日目は、日系企業の工業団地である「タンロン工業団地」にある 2 社を見学した。

カネパッケージは、埼玉県に本社を置くパッケージングの専門会社である。事業内容を説明頂いた後に、工場内を見学した。設計作業を行ってい

る場所も見学し、ものづくりに対する理解を深めることができた。



また、ワークショップで「エッグドロップ」を体験した。この競技は、生卵を包むものを限られた条件で設計し、より高い場所から落としても割れないことを競うものである。実際に、KANEPACKAGE 様が設計したものを組み立てた。梱包のプロフェッショナルとして、その可能性を別のものに生かす姿勢は、生徒たちの発想力や想像力を養うために有意義な学習の場となった。



ワークショップの後は、現地で働く日本人社員にインタビューを行い、海外で働くことにあたっての、経験などをお話しいただいた。日本で働くのでは、得られない充実感や達成感を味わうことができ、海外で働いてとても良かったとのいうことであった。生徒たちは、そのような話を聞いて、海外で働くことにも興味を持たったようであった。

最後には、社員食堂で一緒に昼食を取らせていただいた。使用した卵で調理した料理が出され、ベトナム社員食堂での食事を堪能することができた。



⑥ SWCC SHOWA

午後は、SWCC SHOWA 様に訪問した。本校の卒業生が数多く就職している昭和電線ケーブルシステム株式会社に協力をお願いして、現地の工場視察が実現した。

ベトナム工場は、主にプリンタのローラを製造し、メーカーに卸している。現地の工場では、日本人は、2名しかおらず、それで現地社員 400 人を管理しているとのことであった。以前は、機械を導入する費用より、人を雇った方が安いので、人手に任せていたが、賃金の上昇とともに、自動化が少しずつ進み、現地の生産システムも変革が迫られているようであった。



ベトナム人の高校を卒業してすぐに働いているワーカーさんにインタビューを行い、どのように働いているのかなど具体的にお話を伺うことができた。



⑦ NEC ベトナム

最終日は、昨年も訪問した NEC ベトナムに伺った。今年も、オフショア開発の現状を詳細にお話いただいた。

また、現地社員へのインタビューも実施し、生徒たちも積極的に質問を出していた。現地社員の

学びへの貪欲さが伝わり、ベトナム人と日本人の違いに圧倒されており、口々に、「自分はこれから変わる。」「もっと勉強する」と言っていたことが印象的であった。



6 生徒の感想（抜粋）

僕にとってのベトナムスタディーツアーはただ楽しいだけでなくとても得るものも多く、これからの人生にとっても大きな影響与えるものになりました。キムリエン高校に行って生徒の積極性をみて自分も見習わなくては行けないと思いました。メッセージでのやり取りはたくさんしましたが実際に会うとうまく英語が使えず話せないことがあったので日本に戻ったらもっと英語を勉強したいです。さらに企業訪問では海外進出のメリットや生産工程など普段できない貴重な体験ができました。さらに現地のベトナム人にも話を聞くことがありベトナム人の人間性やアドバイスを聞いてまずはやりたいことがあったらまず挑戦してみるという自分には無い考え方も身につきました。

特に印象に残っている企業はカネパッケージと NEC です。カネパッケージでは日本人の海外に出てみての感想をととても詳しく聞くことができ自分の進路に海外という選択肢が増えました。

NEC ではベトナム人の話を聞いて目標を持つことが大事だと聞き、一つ自分で目標を立てることができました。

このスタディーツアーは自分をとても成長させ

てくれるものでした。物の見方考え方が変わり新しく目標ができ、勉強の意欲が掻き立てられました。さらに伝えることの大切さも学びました。自分の言いたいことがうまく伝わらないことも多くありましたが一番大切なのは伝える意欲とやる気だと思います。今回あったベトナムの方々は何もやる気に満ちていて、そのやる気が全てにつながってくると感じました。なので日本に帰ったらまずは今の気持ちが変わらないうちに今回できた目標や今やりたいことに今まで以上に積極的に挑戦していきたいです。

7 おわりに

今回は、交流の場を多く設定し、工場見学など新たな試みも取り入れてみたが、生徒の感想からも、今回のスタディーツアーから多くのことを学び取ってくれたことが分かり、このような内容での実施もとても有意義であることが分かった。また、3年生については、昨年からの引き続きの参加であったが、2年連続行ったことで経済成長の過渡にある国の勢いを肌で感じ取ることができたようで、予想以上に2年連続して行く意義もあった。今回、参加した2年生も来年も行きたいと言っており、来年は、さらに充実したベトナムスタディーツアーが期待できそうである。

今後、工業高校が目指す人材育成の形として、本プログラムをさらに充実させていきたい。